２０２４年（令和６年）　３月１９日　火曜日

デーリー東北　１２面　掲載

第96回センバツ

大会第１日

第96回選抜高校野球大会が18日、甲子園球場で開幕した。開会式に続き、１回戦３試合が行われ、八学光星、星稜（石川）、熊本国府が２回戦に進出した。

八学光星は関東第一（東京）に延長十一回タイブレークの末、５－３で競り勝った。十一回表に萩原涼太の適時打などで３点を勝ち越し、その裏の反撃を１点に抑えた。先発の洗平比呂が９回２失点と粘り強く投げ、延長戦は岡本琉奨の好投でピンチを切り抜けた。

昨秋の明治神宮大会を制した星稜は21世紀枠の田辺（和歌山）を４－２で下した。初出場の熊本国府は近江（滋賀）に延長十回タイブレークの末、２－１でサヨナラ勝ち。１－１の十回に暴投で決勝点を挙げた。

今大会から投手の受傷事故防止を目的とした低反発の新基準バットが導入された。決勝は30日の予定。

１回戦

八学光星
000 000 101 03｜5
000 010 01０ 01｜3
関東第一（東京）

（延長11回）
（10回からタイブレーク）
（光）洗平、岡本琉―住本
（関）畠中、坂井―熊谷
▷二塁打　越後▷犠打　竹田、佐藤２、住本、三上、今西、越後▷盗塁　佐藤（１）、飛田２（２）、成井２（２）▷失策　住本、阿部、高橋、小島▷暴投　洗平、岡本琉、坂井
▷試合時間　２時間35分

【評】八学光星が延長タイブレークにもつれる接戦を制した。１－２で迎えた九回、三上の右犠飛で追い付いて延長戦に突入。十一回１死二、三塁で途中出場の萩原が右前適時打を放ち、勝ち越しに成功した。佐藤も内野安打で続き、失策が絡んで加点。さらに暴投で走者が本塁に生還し、この回３点を奪った。先発の洗平は９安打を浴びながらも９回２失点と粘投。継投した岡本琉は十一回に暴投で１点を失ったが、後続を断って試合を締めた。

三上「つなぐ打撃」実践　９回に同点犠飛

○…あのノーヒットノーランを忘れるな。昨秋の東北大会決勝でライバルの青森山田に屈辱的な敗北を喫した八学光星は打線一丸の強化を図った。迎えた今大会の初戦はボール球を見極めて長打を狙わず、「つなぐ打撃」を実践。九回１死二、三塁と右犠飛を放ち、同点に戻した７番・三上祥司（青森市出身）は「冬を越して、打てるようになったと成長の手応えを口にした。

光星は東北大会以降、打撃練習前のミーティングで一度もノーヒットノーランの苦い記憶を呼び起こし、集中力を高めた。

この日は関東第一の好投に手を焼いたが、辛抱することなく、四球を選んで好機を拡大。九回に打席に入った三上は、「長打ではなく、とにかくつなごうと思った」。外角のスライダーをしっかりと外野へ運んだ。

「一からウエートトレーニングを見直し、バッティングに対する意識を上げた」と三上。粘り強さと全員野球の意識を身に付けた新たな「打の光星」が躍進を目指す。

９回八学光星１死二、三塁、三上祥司の右犠飛で三走岡本大地が生還、２－２とする

留守部隊、喜び爆発

○…八学光星の体育館には１、２年の生徒466人と教職員47人が集まり、熱戦を繰り広げるナインに地元・八戸市から声援を送った。延長戦の末、勝利を決めると、生徒らは跳び上がって喜びを爆発させた。

黄色いメガホンを持ち、大型スクリーンで観戦。前半の緊迫した投手戦は固唾をのんで見守った。八学光星は先制を許し、追う展開となったものの、「大丈夫！」「いける！」と励ましの声をかけ続けた。

土壇場で同点に持ち込んで突入した延長戦では、祈るようにスクリーンを見つめる生徒も。十一回表に勝ち越すと、体育館が揺れるほど大きな歓声を上げた。

三塁手の三上祥司と同じ青森市立浜田小出身で、陸上部の２年荒関里多さんは「ハラハラしたが、粘り強い姿勢を見せてくれた。同学年が頑張っていると励みになる」と話した。

勝利が決まった瞬間、跳び上がって喜ぶ八学光星の生徒

青森県勢２校、堂々の入場行進

青森県からは青森山田（下）と八学光星が東北地区代表として出場。県勢の同時出場は、同じく両校が選出された2016年以来、８年ぶり２度目となった。開会式では大勢の観客が見守る中、両校のナインが堂々の入場行進を披露した。

デーリー東北新聞社提供